

2005年4月、理工学部開設へ 時代の要請を先取りした 21世紀対応の教育を目指します。

[CONTENTS]

- 2 大学情報図書館の新設について
- 4 理工学部の開設について
- 4 小学校少人数学級体制について
- 7 桃李の人々
- 10 100周年記念事業経過報告
- 14 大学の近況
- 16 中学・高等学校の近況
- 17 小学校の近況
- 18 保健管理センターから
- 19 成蹊学園創立100周年記念事業募金寄付申込者ご芳名
- 20 2003年度決算について
- 22 2005年度入学試験日程
- 23 成蹊学園在学生および教職員数／TOPICS
- 24 学校行事予定(7月～9月)／学園史料紹介

成蹊気象観測所が
環境大臣賞を
受賞!

正門前のサインが新しくなりました





利用者の用途に合わせた三種類の閲覧室

□ 閲覧スペース

アトリウム内の一階から五階までの各階に設けられた閲覧スペースは、気軽に一人でも小グループでも利用できるフレキシブルな空間です。

□ 個人閲覧室

開架書架スペースの周囲に設けられた個人閲覧室は、ガラスによってそれぞれ区切られた空間を個人で専有でき、完全な静寂を得ることが出来ます。ここでは利用者が長時間快適に過ごせるよう、窓から外が見えるようになっています。また自然光と空調はそれぞれ個別に調整することが可能です。

□ グループ閲覧室

大小のサイズがあるグループ閲覧室は、ゼミやグループごとの閲覧、研究、ディスカッションに適しています。吹き抜けのアトリウム空間の中に浮かぶように独立した閲覧室です。



成 蹊学園では、学園創立一〇〇周年記念事業「新・成蹊創造プラン」のもと、情報化時代にふさわしいインテリジェント機能を備えた大学図書館を二〇〇六年秋の開館を目指し新築することを決定しました。

新図書館の設計は、成蹊出身で新ポンドーセンター（フランス）の設計コンペで第1位を獲得した、国際的に活躍されている坂 茂（ばん しげる）氏と三菱地所設計とが共同でした。

新図書館のデザインは、成蹊学園の象徴である本館を中心とした既存建物のレンガの外壁イメージを出来る限り継承させています。また、新図書館西側の櫛並木を借景とするために、新図書館の中央部は外壁を全面ガラスにして、そのアトリウム空間と櫛並木とが融合したデザインとなっています。



大学情報図書館の新設について

（二〇〇六年秋開設予定）

成蹊学園創立一〇〇周年記念事業のテーマである「国際化」とともに、「情報化」を推進するために、多彩な情報機能を備えた「知の拠点」となる大学情報図書館（仮称）の建設に着手します。

キーワードは「明るく、美しく、暖かい建物」。全学をネットワーク化し、学術文献、図書、資料などの情報が瞬時に利用・発信が可能となります。

各階の概要

5F
開架書架
個室閲覧室
閲覧スペース
グループ閲覧室

4F
開架書架
個室閲覧室
閲覧スペース
グループ閲覧室
視聴覚資料室
リファレンスカウンター

3F
開架書架
個室閲覧室
閲覧スペース
グループ閲覧室

2F
開架書架
個室閲覧室
閲覧スペース
PCコーナー
事務スペース
メインカウンター

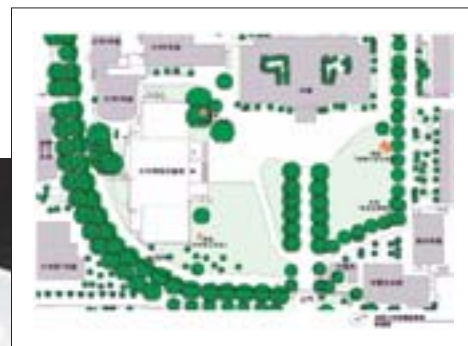
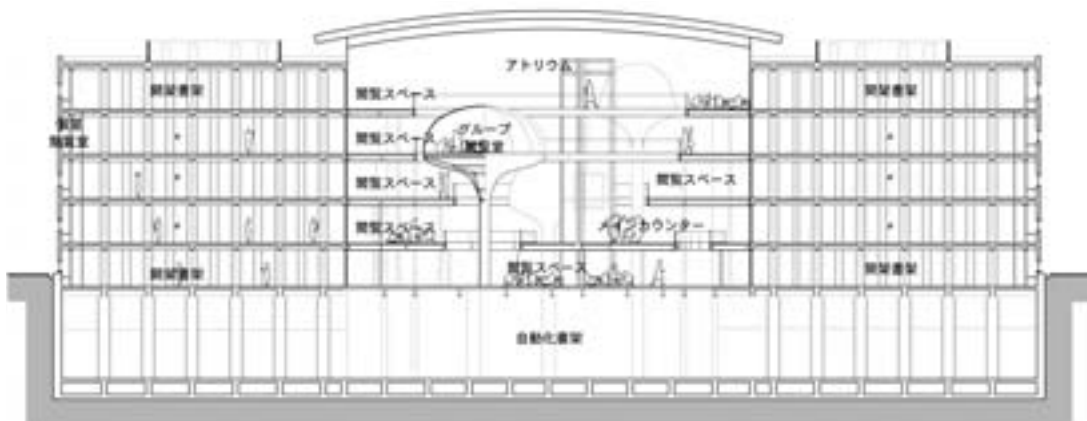
1F
開架書架
個室閲覧室
閲覧スペース
リフレッシュエリア
ブラウジングエリア
事務スペース
サブカウンター

B1F
貴重書庫
事務室

B2F
自動化書庫
機械室

成蹊大学情報図書館概要

設 計：(株)坂茂建築設計・(株)三菱地所設計のジョイント
構造規模：鉄筋コンクリート造 鉄骨造 地上5階、地下2階
軒 高：15m
延床面積：10,965㎡
座 席 数：約1,000席
収蔵冊数：約120～150万冊（現行図書館の約2倍）
工 期：2005年1月着工、2006年6月竣工予定



本誌7ページから建築家 坂茂氏のインタビュー「桃李の人々」を掲載しています。こちらもぜひご覧ください。

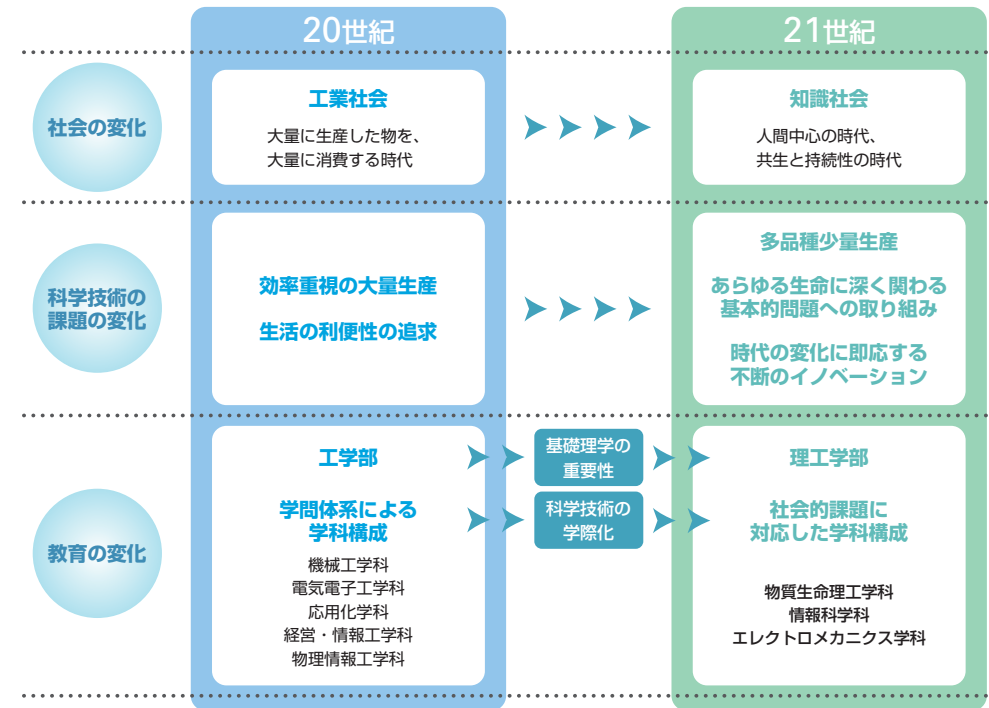
この仕様および図面は2004年5月の基本設計段階のもので、今後施工設計段階で変更される場合があります。

2005年4月、工学部は理工学部へ。

時代の要請を先取りした21世紀対応の教育を目指します。

理工学部開設の背景

21世紀を迎えたわが国においては、工業化社会から知識社会への変革が進行しつつあり、これに対応した新しい科学技術を生み出した人材への要望が増大しています。本学では社会が要求する革新的かつ複雑・高度な科学技術の諸課題に取り組むことを目的とし、これに必要な理学・工学にわたる学際的な教育を実施する環境を整備するため、既存の工学部に替わり理工学部を開設することとしました。

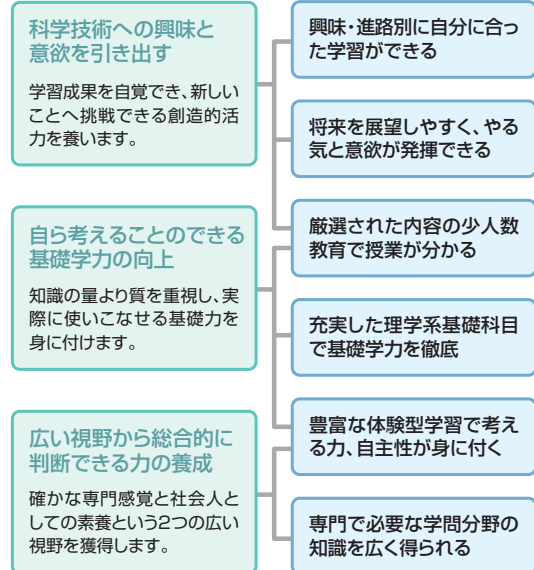


理工学部開設の特色

科学技術の発展は日進月歩のため、その先端ばかりを流行のようにつ追っている、社会の変化に対応できないという矛盾も起こります。どんな状況に対しても応用が利くのは、確かな基礎力です。そこで理工学部は、科学技術の基礎となる理学科目の強化を図り、基礎学力を着実に身に付けることに力を注ぎます。また、実験・演習といった体験型学習と、卒業後の将来を展望する力を養うインターンシップなどのキャリア教育科目を充実させ、社会に対する意識と社会での実践力を養成します。さらに、学際的分野に属する科目を数多く設置すると同時に、現代的なテーマを設定した人文科学や社会科学の科目を自由に選択できるようにし、時代と社会に対する広い視野と総合的な判断能力が養えるよう配慮しています。

理工学部が目指すもの
知識社会の進展に
貢献しうる人材の育成

理工学部の教育テーマ 意欲醸成型カリキュラム



社会的使命によって分類された3学科

理工学部を設置されるのは、「物質生命理工学科」「情報科学科」「エレクトロメカニクス学科」の3学科です。これらは学問的な枠組みに従って作られたのではなく、現代が大学に求める社会的ニーズ、言い換えれば理工系学部の社会的使命に基づく分類によって編成されています。社会の「いま」と真正面から向き合い、人々が待ち望む新しい科学技術の創造と発展に取り組めます。

【社会的使命①】 知の創出

人類が共通課題とする未知の領域に当たる学問分野において、革新的科学技術の創造に挑む。

物質生命理工学科

□主な学習分野
バイオテクノロジー・医薬・環境科学・エネルギー、機能性材料・ナノテクノロジーなど

いずれも人類が解答を出し得ていない未知の領域です。対象となる学問分野は幅広く、特に境界領域における基礎学力の養成を重視します。物理・化学・生物を三本柱として学べる、新しいコンセプトの総合理工学科です。

【社会的使命③】 知の活用

さまざまな産業を支える基盤技術の発展に貢献し、社会を活性化する。

エレクトロメカニクス学科

□主な学習分野
ロボット、自動車・機械、エネルギー、エレクトロニクス、経営・人間工学など

機械・電気電子・経営情報を融合したカリキュラムで、モノづくりの基盤技術を学習します。高性能な機械や電子機器を、ユーザーの使いやすさから生産コストまで考慮しながら設計開発できる広い視野と総合判断力を持つ技術者を養成します。

情報科学科

□主な学習分野
コンピュータ、LSI、情報通信、情報処理、情報数理、システム管理など

ソフトウェア技術、ハードウェア技術、そしてソフトとハードを組み合わせたシステムの構築・管理技術を三位一体で学習します。少人数指導によるコンピュータ演習により実務的なスキルを身に付けることにも力を注ぎます。

【社会的使命②】 知の伝達と共有

あらゆる社会活動に不可欠となったコンピュータの活用技術と、情報基盤技術の進化に取り組む。

ハイテク・リサーチ・センターに選定されました



2004年度から成蹊大学大学院工学研究科は、文部科学省が進める私立大学学術研究高度化推進事業の一環である「ハイテク・リサーチ・センター整備事業」により、私立大学における最先端の個性的な研究プロジェクトとして、設備・研究スタッフ等への総合的な支援を受けることになりました。このプロジェクトは、「人にやさしい」をキーワードとした次世代の無機材料や有機・バイオ材料、そして生活サポートシステムの開発と評価を行うものであり、本学はその研究拠点としてもさらなる拡充が図られることになります。

研究開発プロジェクトテーマは次のとおりです。

- ①「人にやさしい次世代無機材料の開発と評価」
- ②「人にやさしい次世代有機・バイオ材料の開発と評価」
- ③「人にやさしい次世代生活サポートシステムの開発と評価」



二〇〇五年 少人数教育の実施



二〇〇五年度、小学校創立九〇周年を迎える「春」：成蹊小学校の学び舎では新しい胎動を聞くことができます。「新しい」といってもまったく過去に見られなかつ

た動きではありません。創立から戦前まで、そのことはごく当たり前の現象だったのです。創立者中村先生は教育の原点に「一人ひとりが大切にされる、ゆきとどいた教育」Ⅱ「三〇人学級」を置き数々の実践を通して世に問うてきました。私たちは今、その創立の原点に立ち戻り、さらに新しい時代へ大きな飛躍の一步を歩み出すとしていきます。私たちを取り巻いている数々の蠢きの中で「小学校らしい小学校」を常に追い求め、「小学校で学ぶべき基礎・基本」とその周りにある「ゆとり、あそび」の部分子どもたちとともに本気になって考えていきます。

二〇〇五年度は

すべての学年がいちどきに少人数教育へと移行することはできません。現段階では施設の器という面から無理があるのです。そこで二〇〇五年度は低学年（一・三年）

を四学級体制とし、一クラスの人数を限りなく二八名に近づけていきます（一年生は二八名四学級完全実施）。以降毎年一学年ずつ段階的に少人数教育へと移行していきます。小学校地域が再開発される二〇〇八年度には、全学年少人数教育が形の上で完成する運びとなつていきます。

二〇〇五年度仮校舎での始動、戸惑うことも多々あると思いますが、今と異なる疲れや痛みも伴うことでしょう。保護者や世間からの期待も大きくなっていくことでしょう。それを私たちはかならずや良い結果を生み出す緊張のひとこまとして捉え、総力をあげて、知恵と努力で「新成蹊教育」を創造していきます。とにかく、私たちは今、動き始めます。新しい胎動を肌を感じながら、さらにさらによりよい教育をめざして始動していきます。

少人数教育では

一学級二八名という思いきった少人数教育は、私立小学校としても公立小学校としても、同規模校では他に例をみない取り組みです。現在の学級三八名から二八名へと、目前の子どもたちが一〇名も減るのです。そこには一人ひとりに対応した本来の心の通う教育の姿が見えてきます。一人ひとりの表情からその子の思いを読み取るような、温かできめ細やかな教育が浮かんできます。

私たちは変わります

少人数教育は管理しやすさを求めるためのものではありません。子どもたちの思いを即座に感じ取れる感性と技量が私たち教師にはより求められてきます。私たちは変わります。子どもたちの笑顔を求め、将来を切り開く実践的な「成蹊人」をうみ出すために…。



小学校長

岡崎忠彦

桃李の人々

第2回

創立100周年事業の一環として建設が予定されている

「大学情報図書館」(仮称)の設計を担当するのが、OBの建築家・坂茂さん。

“紙の建築家”として、世界的に著名な建築家です。

「成蹊学園の教育が私の建築に対するポリシーに多大な影響を与えている」と語る坂さんに、成蹊学園時代の思い出を振り返っていただきました。



坂 茂

Shigeru Ban

建築家

個を尊重する
成蹊学園の教育方針が
私の“人まね拒否”のポリシーに
結実しています

NHK『ようこそ先輩』で 後輩たちを相手に授業

——先日、出演されたNHKテレビ『ようこそ先輩』(2004年5月9日放送)で、成蹊小学校の5年生を相手に授業をされました。どのような内容の授業だったのですか。

坂 2回に分けて授業を行ったのですが、1回目は紙で作る椅子、2回目は同じく紙を利用した仮設住宅を作ってもらいました。とはいえ、せっかく成蹊小学校で授業を行うわけですから、単にモノを作ることが主眼ではなく、国際感覚というか、世界に目を向けるきっかけになるような授業を心がけました。そのために、生徒に事前に世界で起こっている災害、紛争を調べさせて、1回目の授業で発表してもらいました。また『世界がもし100人の村だったら』(原作:ドネラ・メドウズ、再話:池田香代子)を朗読して、「いかに自分たちが恵まれているかを考えてほしい。そして、将来どんな仕事につくにしても、どんな海外に活

動の場を求めて、世界中を幸せにする努力をしないと、今後自分たちが幸せになることもできないんだよ」と語りかけました。2回目の授業のテーマを、「仮設住宅を作るにしたのも、災害に遭遇して困っている人たちへの手助けという観点を意識したもので

す。

——仮設住宅は、どのような手順で制作していったのですか。

坂 38人の生徒を、同じようなアイデアを持っている生徒同士で5つのグループに分けました。1回目と2回目の授業の間に2週間ほど海外出張があったので、その間に各グループごとに、スケッチと小さな模型を作らせて、eメールでニューヨークの私のオフィスに送付してもらいました。そのスケッチをもとに、私が実際に制作可能なものにアレンジ



NHK『ようこそ先輩』で、坂さんの指導のもとに、成蹊小学校の生徒が制作した作品

して、授業で制作したわけです。最初はパーツを切る作業が中心で退屈していた生徒もいましたが、だんだん形になってくると面白くなったようで、作業のスピードが上がり、全グループが夕方までに完成させることができました。実物大でモノを作るチャンスはなかなかありませんから、生徒にとっては貴重な経験になったのではないのでしょうか。

——できあがった作品についてのご感想はいかがですか。

坂 かなり本格的な作品が多く感心しました。小学生ならではのユニークな発想に富んだ作品もありました。とくに私が興味深く感じたのは、滑り台をつけたり、屋根の上にはのぼるような仮設住宅を作りたいというグループが多かったことです。理由を聞くと「被災

してつらい思いをしているだろうから、その気持ちを癒してあげられるような建物にしたい」というのです。子どもでなければ気がつかない面白い発想だと思いました。

建築とラグビーの両立が 小学校時代の夢だった

——坂さんが建築家をめざされたきっかけは何だったのでしょうか。

坂 もともと、幼少の頃から大工さんにあこがれていました。近所に建築現場がたくさんあり、その現場で遊んだり、木切れを拾ってきてモノを作るのが大好きでした。小学生になっても、学校で好きな時間は、図工と体育と給食というタイプの子どもでしたし(笑)。おしゃべり好きで、いわゆる優等生ではありませんでした。成蹊学園の素晴らしいところは、そんな少し型破りな生徒でも、型にはめようとせず、長い目で見て育ててくれる雰囲気になっていたことです。担任の先生は皆、図工や体育が好きなら、それを一生懸命頑張りたいといった

坂 茂 (ばん・しげる)

昭和32年東京生まれ。成蹊高校卒業後、南カリフォルニア建築大学に留学。昭和59年クーバー・ユニオン建築学部卒業。昭和60年、坂茂建築設計設立。現在、建築家として活躍するかたわら、慶應義塾大学教授も務める。毎日デザイン賞大賞、日本建築家協会新人賞などを受賞。著書に『紙の建築 行動する』(筑摩書房)などがある。



感じでした。真の意味で個を大切にしてくれる学園だったと思います。

——なるほど。小学校時代からの図工好きが高じて建築家の道を歩めることになったわけですね。

坂 建築家志向を決定づけたのが、中学の技術家庭の授業です。簡単な住宅の設計方法を習い、制作したのですが、それが誰よりも早く上手にできました。その時に、自分が建築の仕事に向いていることを自覚したのです。

また、夏休みには「自分の家を設計する」という課題が出され、張り切って取り組みました。庭の木をひねると家の中の電気がつく仕掛けも工夫しました。技術家庭の先生にほめられ、学校に飾られたこともいい思い出です。それが自信にもつながりました。中学生の時に自分の家を設計する課題が出ていなければ、建築家になつていないかもしれませんね(笑)。私は、学校とは、自分が将来何になりたいかを見つける場だと考えています。私の興味・関心を温かく見守ってくださる先生方に出会えたことは、私にとつて幸せなことでした。

——スポーツも何かやっていらしたのですか。

坂 小学生の時からラグビーをやっていました。当時、NHKテレビに『3つの目』という番組がありました。様々な小学校の生徒が、クイズに解答する番組です。その番組で、成蹊小学校の生徒が出演することになった時に、なぜか私が選ばれました。いつもは科学的なテーマなので、理科が得意な生徒が選ばれるものと思っていたのですが、先生から「坂くんはおしゃべり好

きだから出なさい」と(笑)。理科は得意ではなかったのですが、ほとんど答えられないのではと困っていたのですが、何とその回のテーマがラグビーだったので

す。ラグビーに詳しい小学生なんてほとんどいませんから、もう私の独壇場でした。そんなこともあり、高校生の頃までの夢は、将来、建築の勉強とラグビーを両立させることでした。

——ラグビーの成績はいかがだったのですか。

坂 高校2年生の時に全国大会に出場しました。ポジションはナンバー8です。意気揚々と出かけたのですが、1回戦で強豪・大阪工業大学付属高校と対戦し、惨敗してしまいました。もう少し通用するかと考えていたのですが、全国レベルとの差を思い知らされました。そこで、ラグビーの世界でトップレベルで活躍するのは難しい、建築への道一本で頑張っていこうと決意しました。

**海外留学が特別なものと
感じないこと自体が
本当は特別なこと!?**

——ラグビー部に所属しながら、建築関係の勉強も続けていたのですか。

坂 ええ。ラグビーも建築も有名な早稲田大学の入試ではデッサンの試験も課されることを知り、高校1年から絵かきのアトリエに通っていました。高校2・3年生の時は、ラグビー部の練習が終わってから、夜間の美術系予備校にも通いました。そして、その頃読んだ建築雑誌に、アメリカの名門、クーパー・ユニオンの紹介と、同校の学部長の作品が掲載されており、とても

感動しました。ぜひこの大学で学びたいという気持ちが高まり、留学をめざすことにしたのです。

——当時はまだ海外留学はめずらしかったと思いますが…。

坂 母が婦人服のデザイナーであり、毎年のようにパリ・コレクションを見に行っていました。ですから、私の留学志望も抵抗なく理解してくれました。

それに、成蹊学園は伝統的に国際色豊かな学園です。「国際学級」が設けられており、海外経験豊富な生徒が周囲にたくさんいました。外国人の生徒も少なくありません。国籍も人種も関係ない。何の違和感もなく交流していました。そんな雰囲気のもとで学んでいたため、私にとっては海外留学も普通の選択の1つといった感覚でした。海外留学が特別なことのような感じがしないこと自体が、本当は特別なことなのかもしれませんね。

このように、小学校時代から自然なかたちで国際感覚を養えたことは、私の建築家としての活動にも影響を与えています。現在、フランスのボンビドーセンター分館(2007年開館予定)の設計をはじめとして、仕事の約9割が海外なのです。

**建築家には、赤ひげ的な
活動があってもいい**

——坂さんの建築家としてのポリシーをお聞かせいただけますか。

坂 建築の歴史を見ると、一時的なファッションで新しいスタイルが誕生することもありますが、それは長続きはしません。新しい材料や構造が開

発された時にこそ、新しい造形が誕生するものです。ですから、私は今ブームになつていようなファッションを追い、人まねをするのは絶対避けるようにしています。常識にとらわれることなく、自分で新しい材料や構造を開発したいのです。

確かに、坂さんは、FAX用紙の芯をヒントに、紙管で建物を支える方法を考案され「紙の建築家」と呼ばれるなど、新しい材料や構造を次々に開発されていますね。

坂 もう1つのポリシーは、高校時代に本格的に建築家を志した時に、残念に思ったことが関係しています。それは、欧米では建築家は医師や弁護士と同程度の社会的ステータスがあるのに対して、日本ではそれほどの重きが置かれていないということです。その理由の1つは、日本では意匠に携わった人よりも、実際に作った人を尊重する面があることです。今でも、一般の人に、あの建物を作ったのは誰ですかと聞くと、建築家の名前ではなく、建設会社の名前を答えられるケースが多いかもしれません(笑)。その文化の違いだとあきらめていたのですが、仕事を続けるうちに気がついたことがあります。建築家は古くは教会や貴族など、特権階級のための建築に携わってきました。現在でも国、自治体や企業の依頼による仕事を中心です。権力、パワーを視覚的に示すのが建築物という側面があるのです。それは建築家の宿命のようなところもあり、一概に否定するわけではありません。けれども、医師、弁護士に社

会的弱者を救う活動を展開している人も存在するのに対して、建築家はその意識が希薄なのではないか。もっと建築家も、自分の知識・技術還元して、社会の貢献に積極的に取り組む必要があるという思いが募ってきたのです。

それが、紙を活用した住宅を、アフリカの難民住宅として国連難民高等弁務官事務所に提案したり、阪神淡路大震災やトルコ地震の被災地で仮設住宅として実現したり、といった活動に結実しているわけですね。

坂 ただし、正直なところ「社会派」といったレッテルを貼られることには抵抗があります。けれども、建築家にとって「赤ひげ」的な活動も1つの使命であると考えています。

紙を活用しよう
と発想されたのは、
環境への配慮もあったのですか。

坂 いえ、そうではありません。私が紙を材料に使用しはじめたのは、1986年のことです。その当時は、まだ環境問題への関心が薄く、リサイクルという言葉自体使われていませんでした。単に、物を捨てずに大切に使う、弱い物を弱いなりに使うという発想から始めました。ですから「環境にやさしい建築家」というレッテルを貼られるのも本意ではありません。この活動をファッションとしてやってい

るわけではないからです。

ケヤキ並木や本館と融合させた 図書館の設計を構想

ところで、成蹊学園では、2012年に迎える創立100周年に向けて、様々な改革が進行しています。坂さんも、「大学情報図書館」(仮称)の設計を手がけられるわけですが、どのような図書館を構想されていますか。

坂 私は、幼稚園児の頃、初めて成蹊学園のケヤキ並木と本館を見て、憧れのような気持ちを抱いたことを覚えて

います。子ども心に、都会にこんな素敵な場所があるのかと感じ入ったのです。今思うと、この時が、私が建築物に感動を覚えた最初の経験だった気がします。

アメリカやヨーロッパをまわっていると、日常的に素晴らしい建築物に囲まれて暮らすことが、いかに人々の生活や心を豊かにしてくれているか、思い知らされます。ですから、この成蹊学園の恵まれた空間を大切にしたい。いかに現在のキャンパスの雰囲気、とくに本館との調和をどうはかるかが、今回の設計の基本コンセプトになっています。

かなり斬新な設計になるようですね。

坂 両側に書庫を並べて、中央をガラス張りのスペースにします。ケヤキ



「大学情報図書館」の模型

並木を建物の中に取り込みたいと考えたからです。ガラスに透けてケヤキ並木が見え、疲れた時の癒し効果もあるはずですね。

もう1つ配慮したのは、気軽に学生が集まる空間にしたいということですね。最近の学生は試験前にならない(笑)。私は、それは図書館独特の窮屈さに起因していると考えました。以前から不思議に思っていたのですが、閲覧室に大テーブルが置かれているのに、隣の人と話すのはタブーになっています。でも、本を読んで感動した時に、その気持ちも他人に伝えた場合もあるでしょう。もちろん、静けさが確保できるスペースも必要です。そこで、いくつかの層に分けて、入口に近いところはおしゃべりを楽しくてもいいし、お茶を飲んでもいいブラウジングエリアとカフェにしました。大閲覧室もおしゃべり自由な空間です。一方で、一人で勉強するスペースとして、書棚の周りにガラス張りの個室閲覧室も用意しました。

学生たちが気軽に集うスペースになりそうですね。

坂 アメリカでは、結婚に際して、伴侶と一緒に母校を訪れて記念撮影をしている風景をよく目にします。それだけ母校が大切なメモリアルの場所になっているわけです。成蹊学園のこの素晴らしいキャンパスが、そこに集ったすべての人々にとって、より大切な空間になるように、私も建築設計の仕事を通してお手伝いしたいと考えています。

(インタビュー／広報課 伊藤昌弘)



● **国際教育センター**（二〇〇四年四月開設）

世界を見つめる目、成蹊から

学園縦断型の組織設立により
国際化に即した教育の充実を図ります。

低年齢のうちから一貫した国際理解のための教育を行うことは社会の要請でもあります。本年四月に設立された国際教育センターは、小学校から大学までが同一キャンパスという総合学園の利点を活かし、教育機関としての社会的責任を果たします。



● **法科大学院**（二〇〇四年四月開設）

**伝統ある少人数教育
企業法務に強いロースクール**

双方向型授業形態に基づいた密度の濃い授業。
理論と実務を架橋した法学教育を実施します。

伝統の成蹊教育の理念である個性重視の「人格の陶冶」を背景に、高度の専門的な法的知識を実践的に活用する能力の育成と、豊かな人間性を基礎とした法曹としての職業倫理を身につけ、社会の様々な分野において活躍することの出来る人材の育成を目指します。



経済経営学科5つのコース

- ① 社会と環境コース
- ② 組織と人間コース
- ③ 企業と戦略コース
- ④ 金融と会計コース
- ⑤ 経済と政策コース

● **経済経営学科**（二〇〇四年四月開設）

**二十一世紀、
新しい大学教育の創造に向けて**

情報化・国際化の時代に即した
「自立した職業人」を育成します。

従来の二学科を統合し、学ぶ側の視点に立ち、五つのコースと二つの特別プログラムを用意。「自立した職業人」の養成を目指し、ワンランク上を目指す向上心あふれる学生に、情報化・国際化をリードするハイレベルな教育を行います。



成蹊学園創立100周年記念事業経過報告（2004年度）

成蹊学園は、1906（明治39）年中村春二先生が開いた学生塾に端を発し、1912（明治45）年に創設した「成蹊実務学校」から数え2012年に創立100周年を迎えます。

成蹊学園では、これから100周年を迎えるまでに「新・成蹊創造プラン」として数々の100周年記念事業を推進しており、2004年度の事業経過についてご報告させていただきます。

創立100周年記念事業スケジュール

2003年	
2004年	● 4月1日 国際教育センター創設 法科大学院開設 経済学部経済経営学科開設
2005年	● 4月1日 小学校28人4学級体制開始 理工学部開設
2006年	大学情報図書館開設
2007年	● 学園本館の改修 ● 小学校施設の再開発
2008年	
2009年	● 中学・高等学校施設の再開発
2010年	
2011年	
2012年	成蹊学園創立100周年

奨学基金の拡充・学園環境整備資金の充実



「個性を持った自立的な人間の創造」



理工学部（二〇〇五年四月開設予定）

知識社会の進展に貢献できる人材育成 理工学部創設へ

**基礎分野と学際領域を充実させたカリキュラム。
科学技術と広く社会に貢献できる人材を育成します。**

時代の大きな変化に伴い、サイエンスは二十一世紀の社会に何ができるのかという課題に取り組むために、工学部が理工学部へと生まれ変わります。従来の工学的な学問領域を廃し、この社会的使命に基づき「物質生命理工学科」「情報科学科」「エレクトロメカニクス学科」の三学科が誕生します。

ハitek・リサーチ・センターに 選定されました

2004年度より大学院工学研究科は、文部科学省が進める私立大学学術高度化推進事業の一環である「ハitek・リサーチ・センター整備事業」により、私立大学における最先端の個性的な研究プロジェクトとして、設備、研究スタッフ等への総合的な支援を受けることになりました。

大学情報図書館（仮称・二〇〇六年秋開設予定）

国際化とともに、情報化を 推進するために

多彩な情報機能を備えた「知の拠点」

**キーワードは「明るく、美しく、暖かい建物」。
全学をネットワーク化し、学術文献、図書、
資料などの情報が瞬時に利用・発信できるようにします。**

本館を中心とした既存建物のレンガの外壁イメージを出来る限り継承させたデザイン。設計は、新ポテンビドーセンター（フランス）の設計コンビで第一位を獲得した、本学園卒業生の坂茂（ばんしげる）氏と三菱地所設計とが共同であたります。



小学校二十八人・四学級制

（二〇〇五年四月より段階的に実施）

少人数学級編成による 教育の質の向上

「建学精神」の理想を实践します。

全国の私学に先んじて、二〇〇五年四月より段階的に二十八人・四学級制に移行します。学園創立者中村春二先生以来の少数教育の理念に忠実に、そして児童一人ひとりがもっている豊かな個性を引き出す行き届いた教育が今まで以上に可能になります。また二〇〇七年より小学校施設の再開発の検討を進めています。



中学・高等学校施設の再開発

（二〇〇七年着工予定）

国際化・情報化の時代にふさわしい 成蹊人の育成

インテリジェント機能を備えた施設を目指します。

学力の増進と学校の個性化をテーマとして、中高一貫教育を強化に努めます。現在、総合的な施設再開発の検討を進めています。

成蹊学園の沿革

- 1906 (明治39) 年 ● 中村春二、人物教育を志し、今村繁三の援助を得て、本郷西片町の自宅に学生塾を開く
- 1907 (明治40) 年 ● 学生塾を「成蹊園」と名づける
● 岩崎小弥太 成蹊園の事業に参画
- 1912 (明治45) 年 ● 池袋に成蹊実務学校を開設 (昭和2年まで)
- 1914 (大正 3) 年 ● 成蹊中学校を開設 (昭和4年まで)
- 1915 (大正 4) 年 ● 成蹊小学校を開設
- 1917 (大正 6) 年 ● 成蹊実業専門学校を開設 (大正14年まで)
● 成蹊女学校を目白に開設 (大正10年まで)
- 1921 (大正10) 年 ● 成蹊高等女学校を開設
(のちの成蹊女子中学校・高等学校、昭和31年まで)
- 1924 (大正13) 年 ● 中村春二学園長 逝去
● 小学校・中学校・実務学校・実業専門学校を池袋から吉祥寺に移転
- 1925 (大正14) 年 ● 成蹊高等学校 (7年制) を開設 (昭和25年まで)
- 1947 (昭和22) 年 ● 成蹊中学校 (新制) を開設
- 1948 (昭和23) 年 ● 成蹊高等学校 (新制) を開設
- 1949 (昭和24) 年 ● 成蹊大学開設、政治経済学部を設置
- 1962 (昭和37) 年 ● 大学に工学部を設置
- 1965 (昭和40) 年 ● 大学に文学部を設置
- 1966 (昭和41) 年 ● 大学院工学研究科設置
- 1968 (昭和43) 年 ● 大学経済学部と大学法学部を設置
- 1970 (昭和45) 年 ● 大学院経済学研究科と大学院法学研究科を設置
- 1971 (昭和46) 年 ● 大学院文学研究科設置
- 1972 (昭和47) 年 ● 大学院経営学研究科設置
● 大学院法学研究科を大学院法学政治学研究科に改める
- 2004 (平成16) 年 ● 学園に国際教育センターを開設
● 大学院法務研究科 (法科大学院) 開設

100周年記念事業についての詳細は別途パンフレットを用意しております。ご希望の方は下記の広報課までご請求ください。

100周年記念事業の最新情報は学園ホームページに随時情報を掲載しています。ぜひご覧ください。



資料請求・お問合せ先

成蹊学園広報課

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

TEL. (0422) 37-3517 FAX. (0422) 37-3704

e-mail: koho@jim.seikei.ac.jp

<http://www.seikei.ac.jp>

大学院に 経済・マネジメントコース 開設

現 在、大学院の経済学研究科および経営学研究科では、両研究科が共同運営する「経済・マネジメントコース」の二〇〇五年度開設を計画しています。二〇〇三年度から、経済学研究科は「総合エコノミストコース」、経営学研究科は「総合ビジネスコース」と「特別ビジネスコース」をそれぞれ開設していますが、経済学部との経済学科と経営学科の統合に伴い、大学院の方も共同運営(正式な研究科統合については現在検討中)することにしたものです。経済学研究科と経営学研究科は、すでに二〇〇三年度の改革の中で、従来までの研究者の養成を主体とした大学院運営から、高度専門職業人の育成へと方向転換し、「ワンランク上の職業人の

養成」を教育の目標に掲げてきました。経済・マネジメントコースでは、この流れをさらに推し進めて、実践的な色彩の強い科目を多数配置し、「通用する職業人の育成」をめざすことにしています。

経済・マネジメントコースは、大学改革や高等教育カリキュラム創造に関して全国的に注目されている経済学部の教授を中心にして構想されていますので、随所に斬新なアイデアがちりばめられています。特長としては次のようなものがあげられます。まず、経済・マネジメントコースはそこがさらに四つのプログラムに区分けされ、修業年限を弾力化していることです。一般プログラムと高度税務プログラムの標準修業年限が二年ですが、実務経験がある社会人を対象にした短期MBAプログラムは一年、長期履修プログラムは四年となっていて、学生は自

ユニットの構成

戦略マーケティングユニット	
●経営戦略研究	●戦略支援ツール研究
●消費者行動研究	●マーケティング研究
●産業組織と企業戦略	●特殊研究A
組織人間ユニット	
●社会心理学研究	●組織行動研究
●人間情報処理研究	●人的資源管理研究
●人事制度と法律	●特殊研究B
会計税務ユニット	
●財務会計研究	●管理会計研究
●国際会計研究	●租税法基礎研究
●法人税法研究	●特殊研究C
数量分析ユニット	
●データ分析基礎研究	●エコノメトリクス基礎研究
●多変量データ分析	●時系列データ分析
●統計調査研究	●特殊研究D
公共政策ユニット	
●公共経済学研究	●地方公共政策研究
●環境問題研究	●環境マネジメント研究
●福祉問題研究	●特殊研究E
ファイナンスユニット	
●資産選択理論研究	●コーポレートファイナンス研究
●証券市場研究	●現代金融システム研究
●金融トピックス研究	●特殊研究F

分の状況に合わせてプログラムの選択することができず。第二の特長は最先端の考え方でつくられたカリキュラムです。修了に必要な単位区分の中に「自己設計科目」と呼ばれる区分があり、修了に必要な単位の構成の一部を自分で設計するという自由度があります。しかしその一方で、基幹科目の科目選択に際しては、「モジユラユニット方式」と呼ばれる考え方がとられていて、六つのユニットに区分けされた科目群から八単位の科目をまとめて履修しなければならないことになっています。ユニットには「戦略マーケティング」「組織人間」「会計税務」「数量分析」「公共政策」「ファイナンス」があります。この他にも単位スキップや早期修了制度、国際理解科目の創設などさまざまなカリキュラム上の工夫が凝らされています。第三の特長は、実務家による講義科目を複数計画し、それを「実践科目」としてカリキュラムの中に位置付けていることです。この科目群は「岩崎小彌太記念レクチャー」と名付けられており、三菱関連企業の実務家や成蹊の

学位授与式 3月19日



入学式 4月5日



OB・OGなどを招いて、実際の体験をもとにした臨場感あふれる授業を行い、ビジネス感覚を養うことを目的にしています。このように、最先端の大学院教育システムと呼ぶことができるものを目指しています。

経済学部で体系的 キャリア教育スタート

経済学部では、本年度からこれまでの経済学科と経営学科を一つに統合し、経済経営学科という新しい学科をスタートさせました。新しい学科のカリキュラムは、全国的にも注目されている斬新なアイデアを数多く含んでいます。その中でも体系的キャリア教育の構築は、各方面から強い関心が寄せられ、朝日新聞などの全国紙にも紹介されたりしました。キャリア教育の重要性を認識

していない大学は現在どこにもないと思います。しかし、多くの大学がどういう教育をしたらよいのかわからないというのも、また否めない事実です。このような状況の中で、経済学部が構築したキャリア教育体系は、キャリア教育の一つの雛型であると同時に、多くの大学にそれまでの考え方の大幅な転換を迫るものになったといえます。

経済学部のキャリア教育体系は、五つの科目と教員による進路カウンセリングシステムで構成されています。科目は、一年次の「キャリアアプランニング1」に始まり、「キャリアアプランニング2」「(二年次)」「インターンシップ準備セミナー」「(三年次前期)」「ビジネスインターンシップ」「(三年次後期以降)」「公共インターンシップ」(三年次後期以降)というように配置されています。ま

法科大学院始動

た、経済学部AAB(アカデミック・アドバイザー・ボード)という教員組織では、希望する学生にきめ細かいアドバイスをを行っています。キャリアアプランニング1と2は、民間企業(ベネッセ、IPUなど)の協力を得て、教育内容の体系化を行っており、SUCCESS(Seikei University Career Creating and Encouraging Support System)と命名された体系として完成しました。キャリアアプランニング1は本年度から経済学部の一年次対象の科目として開講されていますが、同一の内容の授業を就職部主催の課外講座(希望者のみ有料で参加)として、経済学部以外の一年次生を対象に行っています。

今 春新設された法科大学院は、七十一名の学生を迎えました。平均年齢三十一・四歳、最高年齢六十七歳、社会人経験者が半数を超えるなど多彩なバックグラウンドを持った学生が集まりました。働きながら学ぶ学生のために、平日の夜間および土曜日にも時間割を組み対応しています。大学院生用の研究室は、日曜・祭日二十四時間いつでも使用できるようになっています。

六月からは大学院生や学部学生に対する法曹の啓蒙のため、

四大学運動競技大会

法曹関係者を中心に各方面で活躍している方々を講師として迎え連続講演会も開催しています。第一回の五月二十二日には本学法学部卒の弁護士本間拓洋さんにお話を伺い、約四十名が参加しました。来年度に向けた説明会が法科大学院の入っている大学西一館で行われています。学内向けのものには百名以上の学生が参加し、関心の高さがうかがえました。また、学外向けとしては個別説明会が五月十五日(土)と六月十九日(土)開催され、多数の参加者がありました。七月十七日(土)十三時から西一館で一般的な入試説明会が行われます。法科大学院に関心のある方はぜひご参加ください。

年 間行事の一つ、成蹊・武蔵・成城・学習院の四大学で競い合う四大学運動競技大会(四大戦)。昨年の第五十四回大会では成蹊大学が二十四年ぶり十度目の総合優勝を果たしました。

四大戦は、体育会各部による「正式種目」「だれでも好きな種目に参加できる」「一般種目」、教職員による「教職員種目」から構成されています。種目ごとに一位四点、二位三点という順に点数をつけていき、正式種目と一般種目の合計得点で総合優勝を争います。

アジア太平洋研究センター 連続講演会 「ことしは選挙の年」

正式種目については、すでに競技が行われており、昨年に続きスキー部男子が優勝し、幸先のいいスタートを切りました。今年の第五十五回大会は十月二十二日から二十四日まで武蔵大学で行われます。連覇を期待しましょう。

ア ジア太平洋研究センターでは毎年テーマを決めて連続講演会を開催しています。今年の統一テーマは「ことしは選挙の年」。第一回は五月十一日に「韓国政情と朝鮮半島問題」と題してジョージ・ワシントン大学(アメリカ)名誉教授のヤング・キム氏に、第二回は六月十日に「参院選挙と政局」と題して政治評論家の岩見隆夫氏にお話いただきました。今後の予定はHP等でお知らせします。どなたでもご参加いただけますので、当日直接会場へお越しください。ご参加お待ちしています。

アジア太平洋研究センター
電話 042213713549
URL: <http://www.seikei.ac.jp/university/caps/>

成蹊小学校・ 中学高等学校との交流

成 蹊では小学校から大学までのワンキャンパスとい



う特色を生かし、さまざまな面で大学と成蹊小学校・中学高等学校との交流があります。古くから夏の学校や冬の学校などへの大学生のコーチとしてのボランティアの参加が知られていますが、他にも次のようなものがあります。

○小学校英語の授業でのTA
小学校では二〇〇二年度から、英語の授業が行われています。一・二年生は一クラスを二つに分けそれぞれに先生がつかますが、三年生以上は一クラスを一人の先生でみています。そのため、三年生以上のクラスに先生を補助するTA(教育補助員)が一人ずつつくようになります。TAには大学院生・文学部英米文学科の学生が協力しています。学生自身の授業の合間にTAをするため、大変な面もありますが、学生たちにとっては

いい経験になることでしょう。

○小学校での教育実習

二〇〇二年度より教員をめざす学生が成蹊小学校で教育実習をしています。

成蹊小学校での教育実習は、大学四年で行う「教科の指導中心の実習」の前段階となるもので、「観察実習」と呼び、三年生で行います。この実習で授業のやり方やクラスの運営方法、課外活動などを学んでいます。

○高校生の科目等履修生

今年度より、成蹊高校の生徒が大学の授業を聴講生または科目等履修生として受講できるようになりました。外国語科目など一部公開されていない授業もありますが、ほとんどの授業を受講することができます。

科目等履修生の場合、単位が与えられるので、将来大学に進学した時には単位認定されます。

二〇〇四年度 オープンキャンパス予定

今 年度のオープンキャンパスは左記のとおり開催されます。高校生をおもな対象にしていますが、当日はキャンパス見学ツアーや体験講義なども行われますので、どなたでもご参加いただけます。

第一回 七月二十四日・二十五日
第二回 九月十八日・十九日
第三回 十一月二十日・二十一日
開催時間十時~十七時

例

年になく早い春の深まりに桜時は過ぎ、萼桜が相半ばの風光る四月七日、中学校に国際学級の三年の編入者を含めて二五九名、高等学校に高二編入者を含めて三三六名の新生を迎え入学式が行われました。谷正紀校長は建学理念である「個性の尊重」、「品性の陶冶」、「勤労の実践」の精神を引き継ぎ、国際化、情報化が求められている革新時代の今日を見据えて、成蹊学園が創立一〇〇周年に向けて立ち上げた指針、新・成蹊創造プラン「個性を持った自立的な人間の創造」を紹介しました。中学・高等学校はそれを受けて、誇りを持って社会の発展に貢献できる人間を育成するため「グローバルに認知される教養と個性の育成」、「協調性のある自立精神と自律的行動力の育成」、「知的好奇心と科学的探求心の育成」の教育ビジョンを掲げたことを伝えました。そして中学・高校を通じて幅広い学習、多様な行事、活発な課外活動に積極的に参加して自分の才能や資質を自覚し、伸ばし、充実した学校生活を過ごして、伝統と共に飛躍しようとする新生に呼びかけました。

中学遠足と高校体育大会

学校の遠足と高校の春の体育大会が、予定通り五月七日に行われました。

中学一・二年生は夏の学校の、三年生は修学旅行の予行演習的

要素を持つ遠足ですが、中一は稲荷山コース―一丁平―高尾山頂下―6号路というコースを自然観察をしながら歩くことを重視し、中

二は藤野駅前広場―陣馬登山口―一の尾尾根―相模湖駅というコースと瀬神社―相模湖駅というコースを集団登山歩行を重視して実施しました。初夏を思わせるような明るい日差しと緑豊かな自然を楽しんできました。中三は五月下旬に実施する奈良・京都の修学旅行の班行動の練習を兼ねて、本番と同じルール、同じ見学班で行動することを原則とし、午前には上野の国立博物館を中心に見学し、昼食後班毎に両国に移動し午後は江戸東京博物館を見学し、日本の文化遺産を見る目を養ってきました。

この日、高等学校では春の体育大会が行われ、バレーボール、バスケットボール、サッカー、ソフトボール等の競技が学年別クラス対抗で行われました。この行事で一年生は入学後初めて内部入学者と外部入学者が力を合わせて活動し、また二年生にとってもクラス替え後初めてクラス単位で参加する行事です。多くのクラスが個性的なデザインのお揃いのTシャツを着用して競技に臨み、闘志と熱気に溢れる熱戦と応援を展開しました。一・二年共にスポーツを通じた初の共同作業（チームプレイ）で一挙に友人の輪を広げたことでしょう。大きな事故もなく成功裏に閉会しました。

中学修学旅行

例

年通り五月二十七日から三十一日帰京の日程で中学三年生は修学旅行に出発しました。新大阪からバスで早速法隆寺・中宮寺に直行し見学。この日から奈良、京都に二泊ずつ四泊五日の日程です。修学旅行のために国語や歴史、美術等の授業で学んだ史跡や建築物、仏像、美術・工芸品などに現地で目に触れてきました。実物を通して時代に生きた人々の信仰、技術、生活や知恵等に豊かな想像力を巡らし、それらの多くが現在も生活の中に息づいていることを実感することができました。

進学状況

今

春の高校卒業生の進学状況について簡単に報告します。今年の成蹊大学への進学者は全体の二七・八％の八八名で、昨年度より三ポイント上昇しました。

国立大学には現役が東大、東工大、東外大、千葉大等全部で二二名が合格。また私立大学には、早稲田、慶応義塾、上智、中央、東京理科大学等合計で九五名の現役生が入学しました。これに、いわゆる浪人の結果が加算されることとなります。

現役で大学へ進学した者は内部推薦者も含めて二〇五名、現役進学率は六五・五％になりますが、私達が標榜する「高校修了時点でのこの大学へ進むにも十分な学力

文化部・運動部の活躍



【文化部】

【天文気象部】

学会名：〈天文学会ジュニアセッション〉 3月22日 於 名古屋大学

題 名：「系外惑星探査に挑戦」 発表者：増森治子・森本迪恵

尚、この内容は地質学雑誌5月号口絵（日本地質学会の論文誌）に掲載されています。

題 名：「高校生による月面分光地質学」 著 者：成蹊高校天文気象部、宮下 敦、佐伯和人（阪大理学部）

【運動部】

【中学】

【女子バレー部】

中学校春季大会

○第九ブロック予選 ……第3位

○都大会 初出場 ……一回戦

【ラグビー部】

中学校春季大会

○都大会 ……決勝進出

* 関東大会出場決定

【硬式テニス部】

中学校テニス選手権

○第九ブロック予選

（男子個人の部：シングルス）

加藤優貴 ……準優勝

菅野孝之 ……3位

他七名 ……都大会出場

（男子個人の部：ダブルス）

加藤優貴・佐々木優 ……優勝

増井康亮・三嶋悠之 ……3位

他三組 ……都大会出場

（女子個人の部：シングルス）

伊従智子 ……優勝

佐藤万里菜 ……準優勝

田中優衣 ……3位

他四名 ……都大会出場

（女子個人の部：ダブルス）

伊従智子・佐藤万里菜 ……優勝

田中優衣・田中 泉 ……3位

他一組 ……都大会出場

○都大会

（男子個人の部：シングルス）

加藤優貴・三嶋悠之 ……32位

（男子個人の部：ダブルス）

加藤優貴・佐々木優 ……ベスト4

増井康亮・三嶋悠之 ……ベスト4

* 以上二組 関東大会出場

（女子個人の部：シングルス）

伊従智子 ……ベスト4

佐藤万里菜・田中優衣 ……32位

（女子個人の部：ダブルス）

伊従智子・佐藤万里菜 ……ベスト16

《高校》

【馬術部】

関東馬術リーグ戦 優勝（45年振り）

寺井彩月（最優秀選手）

川瀬直也、及川翔奈

* 全国大会出場決定

【ラグビー部】

高校春季大会

○都大会 ……第5位

* 関東大会出場決定

【硬式テニス部】

高校選手権大会

（男子団体）

○都大会 ……準決勝進出

* 関東大会三年連続出場決定

（女子団体）

○都大会 ……ベスト16

【サッカー部】

全国大会予選

○都大会 ……1回戦

【剣道部】

春季大会兼関東大会予選

（男子団体）

○都大会 ……3回戦

【柔道部】

都選手権兼関東大会予選

（男子団体）

○第四支部大会 ……第5位

○都大会 ……1回戦

をつけて卒業させる」ために一層の努力を重ねる所存です。また、二〇二〇年度成蹊大学内部進学者が二五％を下回ったことを憂慮し、私達は生徒が進学志望先を検討する段階で、大学と協力して成蹊大学の特徴や良さについて理解を深める活動をしてきました。成蹊大学が志願倍率二年連続全国一位であることや、いわゆる有名私立にも勝るとも劣らない就職状況であること、優れた指導陣

による少人数の充実した教育・研究体制、学部学科再編の動向などについて、校長自ら生徒や保護者に向けて説明してきました。また、大学の模擬授業や国際教育センターが高大連携プログラムとして大学の履修単位を認定する「国際教養科目」を設置する等、一貫教育校ならではの特徴ある高大協力体制を築き始めました。生徒にとって一段と魅力ある一貫校を目指し更に邁進するつもりです。

四月七日 六年生だから

六年 田中佐和子

「六年生だからしっかりしなさい。」
「六年生だからやるんだ。」

最上級生の六年生だからという言葉が、これからの私のまわりを飛びかいます。

なんでもかんでもまかされてしまう六年生。クラブも、委員会も、一年生です。

朝の学年集会関根先生が、六年生になったこれからについてお話ししてくださいました。

「これから『六年生だから』ということが増えてきます。」とのことです。

つまり、キャッチフレーズになつてしまうのです。学校を動かすのは私達ということです。このキャッチフレーズにぴったりの六年生を自覚してがんばりたいです。



今年もかわいらしい一年生が

一一四名入学してきました。国際学級にも六名の五年生が仲間入りしました。

最上級生となった六年生は、田中さんの日記の表現のように、まだまだ心の中は初心者マークです。でも、学校を動かす「力」としての思いは確実に育ってきているようです。

一年生とペアを組んだその日に、「こんな『うた』で自分の気持ちを語っています。」

いちねんせい

ぼくもむかしは

いちねんせい

(高野修平)

パートナー

せつしかたが

むずかしい

(大河原彩子)

今思う

私もこんな

時期があつた

(武笠華奈)

パートナー

いきなり会えず

先真っ暗

(菊池優)

チビだなあ

オラも昔は

こうだった

(酒井亮輔)

二年生から五年生まで
一つずつ進級した子ども



たちみんな、心を新たにしてい
「がんばり」の思いを強めていま
す。成蹊小学校は「今」を大切に
しながら将来を見据えた動きを
始めているのです。

心を育て、 体を鍛える遠足

四月二十八日 死にそうだ

国際五年 古條愛梨

遠足の山の登り道、最初の三歩
でつかれてしまいました。ぐんぐ
ん登って行くうちに、上を見上げ
るたびにまだかなあと思いました。
とうとうおばあちゃんのようにこ
しが曲がっていたくなってきました。
とても苦しかったです。

もっと急になると、足があがら

なくなつて息が切れそうにな
りました。そこまでき
ると、もうみんなといっし
よじゃなくていいから、こ
こにいさせてと思うよう
になりました。そんなこ
とを考えていると、先生が、

「あと三十メートルで休け
い！」と言いました。だれ
かが、「三百メートルのま
ちがいじゃないですか
ー？」と言いました。私は、

(たぶん、あと三十メー
トルだね。)と思いました。
でも、やっぱりきよりは長
かったです。

それをくり返していっ
て、やっと頂上につしまし
た。ついた時は、(やったー)
という気持ちになりました。

あとになつて思うと、けっこう
楽しかったなと思いました。

古條さんにとって、日本に帰
国して初めての遠足、山登り：
さぞかし大変な思いをしたこ
とでしょう。そんな五年生は奥多
摩の大塚山、御岳山に登りまし
た。四年生から二年生までは、

学年ごとに登り下りのコースを
変え高尾山で遠足が行なわれま
した。一年生と六年生はペアを
組み、井の頭文化園に行きまし
た。途中、夕立にあつた学年も
ありましたが、暑さにまいるこ
ともなく、楽しく心と体を鍛え
ることができました。

「文部科学大臣表彰」を：等

東京都の小中学校で唯一
(全国で二六校)の創意工
夫育成功労学校として選ばれ
「文部科学大臣表彰」を受けま
した。

五月二二日、五月には珍しい
寒空のもと運動会が行なわれま
した。

小学校の畑ではたわわな小麦
が実りました。やがて「こみち」科
の学習の中で食材になっていきま
す。こうした「今」の主な学校の
動きは「小学校のホームページ」上
に順次掲載していきます。



AED設置をめざして

体力増進、生活習慣病の予防のために行った「運動」で突然死を起こすことがあります。しかし、正しい知識と装備によって、突然死の危険を最小限に抑えることが出来るのです。

一昨年の十一月、高円宮様がスカッシュの最中、四十代の御若さで倒れられ、衝撃が走りました。突然の薨御、病名は「心室細動」、様々な原因により心筋のあちこちで痙攣の様に勝手な収縮がおこり、血液を全身に送る秩序的なポンプ機能が停止する病気で、こうなると十五秒以内に意識を失い、放置されれば一分ごとに救命率は約10%低下し、五分で50%以下となつて、救命は極めて難しくなるのです。

また、心室細動は中高年だけでなく、子供にもみられます。「心臓振盪（しんとう）」、持病の無い元気な子供の胸部部に野球のボールなどが当たり、その衝撃で心臓が停止して倒れてしまうというものです。これも、前胸部への衝撃で心室細動が起これば考えられています。

心室細動は、自然に回復することとはほとんどなく、唯一の治療方法は電気的除細動です。高い電圧を心臓にかけ、心筋のばらついた電気的興奮を、一定の秩序あるリズムに戻すのです。

ズムに戻すのです。

最近の除細動器は著しい進化を遂げ、機械の電源を入れるだけで音声ガイドが始まり、倒れている人に装置を接続するよう指示します。このガイドに従えば機械が自動的に心電図を解析し、必要であれば放電指示を出して除細動が行えるのです。まさに機械のガイドに従えば安全に除細動が出来るのです。その後再自動解析を行い、必要と判断すれば自動的に電圧をかえて再度放電指示を出すのです。

これを自動体外式除細動器（AED）といい、この除細動判断の正確性は極めて高く、正常な人への誤発射は皆無と言えます。米国では、AED講習（四時間程度）を受けて誰でも使用することが出来るため、様々な公共施設（空港・駅・企業内・スタジアムなど）に設置され、早期除細動が可能となっています。現在、日本ではAEDの使用は医療行為にあたるため、医療従事者と航空機内の客室乗務員のみに限られ、一般市民は使用することが出来ません。

しかし、厚労省はこの夏頃を目処に一般市民によるAEDの使用（PAD）を認める方針です。日本の場合、救急車が到着するまでに平均五・七分かかります。脳は酸素不足に弱く、わずか五分

で重大な障害を残します。救急車の到着を待っているは一命を取り留めても、脳障害が残り、社会復帰が不可能となります。救急車の到着までに行った処置如何で、傷病者の生命が大きく左右されるわけです。大切な命を守るためには、バイ・スタンダー（その付近に居合わせた人）による迅速な心肺蘇生、早期除細動と救急隊要請の連携が必須です。

児童、生徒、学生、教職員が安心して学園生活を送るために、成蹊学園は生命危機管理の一貫としてこの問題にいち早く対応し、学園内で救命法指導者の育成やシステム化したAED設置などの体制づくりをすでに始めています。

スカッシュ中の宮様の薨御は、スポーツを愛する人々にも衝撃を与えました。運動中の突然死の7割は心血管系が原因で、そのほとんどは中高年に多い動脈硬化性病変を基盤とした虚血性心疾患であり、多くの場合、心室細動を認めます。肥満・高血圧・高脂血症・糖尿病などのいわゆる「死の四重奏」に加え喫煙がそのリスクとなり、こうした生命危機は何もスポーツ環境だけでなく、日常生活習慣に根差すところも大きいのです。早期からの健診による定期的な医療指導は、突然死の有力な予

所長の独り言

櫻井勝

耳を覆いたくなる様な事件である。小学校内で少女が少女を殺した。殺した少女は血まみれでクラスメートの前に現れたと言った。メールの書き込みが原因だ。

ラジオ番組で命の教育が必要との投稿が相次ぎ、報道番組ではコメントイーターが異例の事件と言う。常識を超えた出来事に誰もが震撼とした。

この加害者が特殊であったのかは現時点では不明である。しかし、犯罪心理学者によれば犯罪者のほとんどはごく普通人だという。この加害者の如き予備軍は五万といることになる。つまりごく普通の人が仮想空間での非現実的な社会性やコミュニケーションの欠如などの要因が加わる時、ボーダー領域の子は人を殺しうる。

異例の加害者を救い得るのは医療であるかもしれない。しかし、ボーダー領域の子供達に対しては家庭や学校でも出来ることがある様に思う。

救急医療の現場では死はごく身近に存在する。仮想の出来事ではない。私は多くの死を診てきた。命についてと言うより、死について考える事が大切だと思う。そして、その死に抗おうとする強い心にこそ、説得力のある命の教育が存在しうると思う。

生徒達を守ろうとすると、机上の空論は意味を持たない。私たち教職員自らが救命の指導をするなり、実践をもって伝える「死」の重みこそ、生徒に伝わる「命」の教育と信じている。

防対策となるでしょう。

スポーツは危険だ、とスポーツ人口が減少することは悲しいことです。正しい知識と装備で突然死

を予防し、健康増進のためにも健全な生活習慣と楽しいスポーツに心躍らせていきたいものです。

保健師 石川 孝子

第1表【消費収支計算書】			
2003（平成15）年4月1日から2004（平成16）年3月31日まで			
（単位:百万円）			
消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	11,136	11,138	2
手数料	709	834	125
寄付金	380	470	90
補助金	1,336	1,352	16
資産運用収入	338	381	43
事業収入	162	188	26
雑収入	250	356	106
帰属収入合計	14,311	14,719	408
基本金組入額合計	△ 3,868	△ 3,012	856
消費収入の部合計	10,443	11,707	1,264
消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	7,578	7,569	△ 9
（教職員等人件費）	（ 7,229 ）	（ 7,210 ）	（ △ 19 ）
（退職給与引当金繰入額）	（ 349 ）	（ 359 ）	（ 10 ）
教育研究経費	4,233	4,198	△ 35
（うち減価償却額）	（ 1,607 ）	（ 1,621 ）	（ 14 ）
管理経費	836	828	△ 8
（うち減価償却額）	（ 171 ）	（ 190 ）	（ 19 ）
借入金等利息	82	82	0
資産処分差額	34	50	16
徴収不能引当金繰入額	13	13	0
徴収不能額	0	23	23
〔予備費〕	（ 170 ）		0
	0		
消費支出の部合計	12,776	12,763	△ 13
当年度消費収支差額	△ 2,333	△ 1,056	
前年度繰越消費収支差額	2,422	2,422	
次年度繰越消費収支差額	89	1,366	

第3表【貸借対照表】				
2004（平成16）年3月31日				
（単位:百万円）				
資産の部				
科 目	本年度末	前年度末	増 減	
固定資産	67,601	66,993	608	
有形固定資産	40,611	38,681	1,930	
土地	6,111	6,111	0	
建物・構築物	28,529	26,482	2,047	
教育研究用機器備品	1,734	1,758	△ 24	
図書	4,133	3,952	181	
その他	104	378	△ 274	
その他の固定資産	26,990	28,312	△ 1,322	
有価証券	379	379	0	
特定資産	26,339	27,665	△ 1,326	
その他	272	268	4	
流動資産	15,945	13,967	1,978	
現金預金	8,311	7,287	1,024	
その他	7,634	6,680	954	
資産の部合計	83,546	80,960	2,586	

第2表【資金収支計算書】			
2003（平成15）年4月1日から2004（平成16）年3月31日まで			
（単位:百万円）			
収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	11,136	11,138	2
手数料収入	709	834	125
寄付金収入	380	441	61
補助金収入	1,336	1,352	16
資産運用収入	338	381	43
資産売却収入	200	400	200
事業収入	162	188	26
雑収入	250	356	106
借入金等収入	0	1	1
前受金収入	1,954	2,373	419
その他の収入	5,731	5,934	203
資金収入調整勘定	△ 2,605	△ 2,799	△ 194
前年度繰越支払資金	7,287	7,287	
収入の部合計	26,878	27,886	1,008
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	7,715	7,701	△ 14
（教職員等人件費支出）	(7,229)	(7,210)	(△ 19)
（退職金支出）	(486)	(491)	(5)
教育研究経費支出	2,626	2,577	△ 49
管理経費支出	665	638	△ 27
借入金等利息支出	82	82	0
借入金等返済支出	172	172	0
施設関係支出	3,213	3,197	△ 16
設備関係支出	566	566	0
資産運用支出	5,154	5,457	303
その他の支出	407	429	22
〔予備費〕	(250)		0
	0		
資金支出調整勘定	△ 440	△ 1,244	△ 804
次年度繰越支払資金	6,718	8,311	1,593
支出の部合計	26,878	27,886	1,008

(単位:百万円)

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	7,503	7,812	△ 309
長期借入金	1,390	1,568	△ 178
退職給与引当金	6,113	6,244	△ 131
流動負債	3,930	2,991	939
短期借入金	178	173	5
前受金	2,373	2,321	52
その他	1,379	497	882
負債の部合計	11,433	10,803	630
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	59,389	57,031	2,358
第2号基本金	2,500	1,900	600
第3号基本金	7,774	7,720	54
第4号基本金	1,084	1,084	0
基本金の部合計	70,747	67,735	3,012
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
次年度繰越消費収支差額	1,366	2,422	△ 1,056
消費収支差額の部合計	1,366	2,422	△ 1,056
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部 及び消費収支差額の部合計	83,546	80,960	2,586

2003年度決算について

学校法人成蹊学園の2003年度決算は、学園監事及び公認会計士の監査を受け、5月28日の理事会・評議員会において、確定いたしました。

第1表の消費収支計算書についての概要は、次のとおりです。

納付金、手数料、補助金、資産運用収入などの本学園に帰属する「帰属収入」は合計で147億19百万円となりました。また、「基本金組入額」の合計は30億12百万円となり、うち第1号基本金は、2003年度に建設・購入等により取得した、建物、機器備品、図書等の資産分として13億59百万円、第2号基本金は将来の校舎取得等を目的とした施設設備整備資金の積上げに係る計画組入分の16億円、第3号基本金は奨学基金と工学研究助成基金の積上げ分の53百万円となっています。

帰属収入からこの基本金組入額を控除した額が、消費(支出)に充当できる「消費収入」で、その額は117億7百万円となりました。

一方、教職員の人件費、教育研究・管理経費(減価償却額を含む)、借入金利息等の「消費支出」の合計は、127億63百万円となり、この結果、消費収入から消費支出を差し引いた消費収支差額は、10億56百万円の消費支出超過となりました。

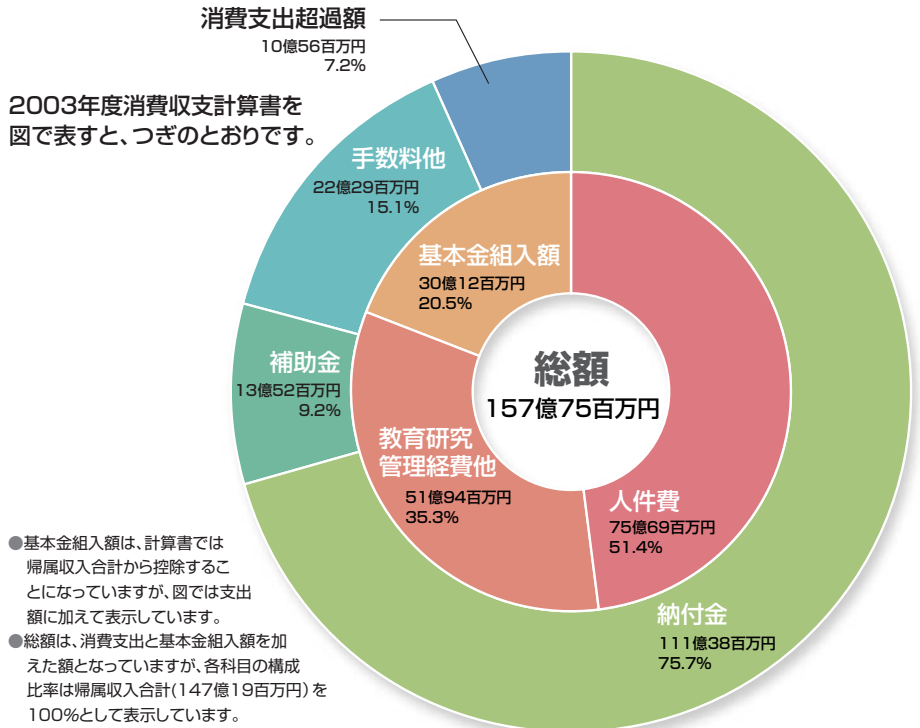
消費収支計算書の主な増加・減少要因等は次のとおりです。

- 納付金は帰属収入に占める最大の収入要因であり、その割合は約75.7%となりました。
- 手数料は小学校、中学校、高等学校及び大学各学部の新入生数が堅調だったことと法科大学院の新入生数が1,531人(入学定員50人)と予想を上回る人数だったことにより増加しました。
- 寄付金は学園創立100周年記念のご寄付により増加しました。
- 補助金は納付金に次ぐ収入源です。2003年度はほぼ予算どおりの額となりました。
- 雑収入は教職員の退職者が増えたことにより、私学退職金財団からの交付金収入が増加したことによります。
- 当年度の収支差額は23億33百万円を見込んでおりましたが、帰属収入が4億8百万円増額したこと、基本金組入れが建設費の未払いにより一部来年度となり、8億56百万円の減少となったことなどから、10億56百万円の消費支出超過となりました。

第2表の資金収支計算書は、教育研究など学園全体の諸活動に伴う資金の動きが全て網羅されており、総額は278億86百万円となり、次年度繰越支払資金は83億11百万円となりました。

資金収支計算書の主な増加・減少要因は次のとおりです。

- 資産売却収入は過去に購入した有価証券(債券)が満期になり償還されたものです。
- 資産運用支出は学園創立100周年記念寄付金



の積上げや、過年度分の調整をしたこと等により増加しました。

●次年度繰越支払資金は大学西1号館と工学部校舎改修工事の竣工が年度末だったため、建設費の一部が未払い金となったことにより増加しました。

2003年度に実施した主な事業について

- 法科大学院に係る開設準備費用…2億23百万円
主な使途は、図書・備品の購入と学生募集に係る広報費です。法科大学院は1,531人の志願者があり、2004年4月に71名が入学しました。
- 経済学部の学科改編に係る費用…34百万円
学部の開設後35年間続いていた経済学科・経営学科体制を「経済経営学科」1学科体制に改編し、創意工夫された新しい学部教育モデルの始まりを広報するための費用です。新カリキュラムでは、体系性を重視する旧来の専門科目群が、学生の学習関心の視点から、5つの履修コースに再編されました。また、1年次では、学部共通の基礎学力の育成が図られ、1～3年次では、自ら進路を作り出すキャリアプランニング能力を育てる授業科目群が新設されました。
- 大学西1号館の竣工…12億99百万円
鉄筋コンクリート4階建てで、演習室、模擬法廷、学生研究室等が配置された1階から3階までを法科大学院が使用し、4階をアジア太平洋研究センターが使用しています。

- 工学部校舎改修関連費用…16億23百万円
2002年度から2003年度にわたり総額28億46百万円をかけて大学11・12・13号館の耐震補強などの改修を行いました。内装も全てリフォームし、新築同様となり、教育・研究環境の改善を図りました。
- 情報教育関連費用…2億61百万円
情報教育関連システムを維持管理していく費用です。2003年度は教育研究用クライアントサーバーシステムの入替えの年にあたり、大学7・8号館のパソコン380台を入替え、最新の状況での使用が可能となりました。
- 大学3号館視聴覚システム改修…1億円
昨年度に引き続き1998年度に設置した大学3号館MOLL教室システムの入替えを行い、また、使用頻度の高いCALLシステムを大学3号館405教室に新設しました。
- GPA制度の導入…16百万円
現在、大学に求められている「成績評価基準の明示と厳格な成績評価の実施」に対応するために、2004年度から国際的な成績評価システムとして広く採用されているGrade Point Average(GPA)制度を導入するための費用です。
- 中学多目的教室棟…31百万円
中学多目的教室棟の完成により、英語の授業を学習経験に応じ1クラスを2分割し、少人数での学習が可能となりました。小学校段階で英語の授業を受けてきた生徒と中学校で始めて勉強する生徒をわけ、効果的な学習を行っています。

二〇〇五年度 入学試験日程

【大学】

A方式:3教科型

学部	学科・募集人員		出願期間	試験日	合格発表日
経済学部	経済経営学科	地歴公民型	280	2月13日(日)	2月20日(日)
		数学型	65		
法学部	法律学科		1月4日(火)～1月31日(月) (消印有効) ただし2月1日(火)に本学で 窓口受付をおこないます。	2月14日(月)	2月21日(月)
	政治学科				
文学部	英米文学科			2月12日(土)	2月19日(土)
	日本文学科				
	国際文化学科				
	現代社会学科				
理工学部	物質生命理工学科			2月11日(金)	2月18日(金)
	情報科学科				
	エレクトロメカニクス学科				

C方式:大学入試センター試験利用型

学部	学科・募集人員			出願期間	試験日	合格発表日
経済学部	経済経営 学科	3教科型	40	1月4日(火)～1月14日(金) (消印有効)	1月15日(土) 1月16日(日) (大学入試 センター試験日) 本学での2次試験は 実施しない。	2月7日(月)
		5教科型	10			
法学部	法律学科		36			
	政治学科		24			
文学部	英米文学科		12			
	日本文学科		8			
	国際文化学科		10			
	現代社会学科		10			
理工学部	物質生命理工学科		30			
	情報科学科		30			
	エレクトロメカニクス学科		35			

AO マルデス

学部	学科・募集人員		出願期間	審査日 (1次)	合格発表 (1次)	審査日 (2次)	合格発表 (2次)
経済学部	経済経営学科	40	9月22日(水) ～ 10月7日(木) (消印有効) ただし10月8日(金)は 本学で窓口受付をお こないます。	10月23日(土)	10月29日(金)	11月6日(土)	11月13日(土)
法学部	法律学科	26					
	政治学科	14					
文学部	英米文学科	12					
	日本文学科	8					
	国際文化学科	10					
	現代社会学科	10					
理工学部	物質生命理工学科	10					
	情報科学科	10					
	エレクトロメカニクス学科	10					
			(実技)10月30日(土) (面接)10月31日(日)				

【高等学校・中学校・小学校】

	募集年次		募集人員	出願期間	試験日	合格発表日
高等学校	第1学年		約80名	1月25日(火)～1月30日(日)	2月10日(木)	2月11日(金)
	海外帰国子女		第1学年若干名	2月2日(水)～2月5日(土)	2月14日(月)	2月15日(火)
	第2学年転編入		若干名	3月1日(火)～3月11日(金)	3月15日(火)	3月16日(水)
中学校	第1学年		男子約70名 女子約40名	1月20日(木)～1月23日(日)	2月1日(火)	2月2日(水)
	国際学級(4月期入学)		第1学年若干名 第2学年若干名 第3学年若干名	12月8日(水)～12月14日(火)	1月11日(火)	1月13日(木)
	国際学級(9月期入学)		第1学年若干名	6月8日(火)～6月15日(火)	2004年7月5日(月)	2004年7月6日(火)
小学校	第1学年		112名(男子56名、女子56名)	10月1日(金)～10月8日(金)	男子 11月1日(月)午前と 2日(火)～4日(木)の1日 女子 11月1日(月)午後と 2日(火)～4日(木)の1日	11月5日(金)
	国際学級	第4学年	8名	1月12日(水)～3月1日(火)	3月5日(土)	3月7日(月)
		第5学年	12名	第I期 1月12日(水)～3月1日(火)	3月5日(土)	3月7日(月)
				第II期 2005年9月を予定	未定	未定

所属			在学生			教職員数		
			男	女	計	専任	非常勤	計
学園	国際教育センター		—	—	—	2	0	2
大学	大学院	工学研究科	148	14	162	—	—	—
		経済学研究科	7	3	10			
		法学政治学研究科	11	5	16			
		文学研究科	17	27	44			
		経営学研究科	20	12	32			
		法務研究科	52	19	71	16	361	583
	学部	経済学部	1,294	830	2,124	46		
		工学部	1,403	206	1,609	78		
		文学部	374	1,602	1,976	46		
		法学部	1,208	860	2,068	36		
	共通		—	—	—	1	77	78
大学計		4,534	3,578	8,112	223	438	661	
高等学校			583	409	992	47	34	81
中学校			470	296	766	41	20	61
小学校			436	268	704	33	8	41
養護教諭			—	—	—	3	—	3
事務・技術・労務職員			—	—	—	201	—	201
合計			6,023	4,551	10,574	550	500	1,050

学 園 T o p i c s



成蹊気象観測所が
環境大臣賞を受賞しました



宮下 敦 教諭
(中学・高等学校地学科、成蹊気象観測所担当)



成蹊気象観測所が環境大臣賞「地域環境保全功労者表彰」を受賞しました。

六月七日、東条インペリアルパレスにて表彰式が行われ、谷中学・高等学校校長が代表して小池百合子環境大臣より表彰を受けました。

「地域環境保全功労者表彰」とは、地域環境保全の推進のため、多年にわたり顕著な功績のあった者・団体に対して贈られるもので、全国で二十四名・三十団体が受賞しました。観測所では、一九二五年以来、今日まで継続して観測を続けており、現在では、中学・高等学校地学科の宮下敦教諭が中心となつて視程観測(富士山・東京タワー等が見えるか)、酸性雨観測、桜の開花観測等を行つております。これらの気象観測データは、ヒートアイランド現象や地球温暖化の影響を解析する上で大変貴重なものであり、また、こうした活動を通じて環境問題への認識を高めることへ貢献していることなどが評価され表彰されました。

なお、環境問題に対し長年貢献してきた廣野良吉成蹊大学名誉教授も、同日、環境大臣賞「環境保全功労者表彰」を受賞しました。

お詫びと訂正：学園広報53号7ページ4段目の17行目の「石坂泰彦君」は、正しくは「石坂泰彦君」です。関係者各位にお詫び申し上げますとともに訂正いたします。